

日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 IIOE-2 小委員会 (第 24 期・第 1 回)
議事要旨

- 開催日時 : 2019 年 2 月 14 日 (木) 10:00-11:00
- 開催場所 : 日本学術会議 6-A(1) 会議室
- 出席者 : 山形俊男、小畑元、齋藤宏明、東塚知己、本多牧生、西岡純 (Skype 参加)、
武田重信 (Skype 参加)、植木巖、升本順夫、村田昌彦 (オブザーバー)
(計 10 名)

■ 議題等

1. はじめに

学術会議連携会員である山形委員より、第 24 期日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 IIOE-2 小委員会の発足について説明があった。

2. 議題

2. 1. 役員選出

委員の互選により、委員長に升本委員、幹事に植木委員を選出した。

2. 2. 国際的な IIOE-2 の状況の紹介

国際的な IIOE-2 の状況について、升本委員長から紹介があり、現状の情報共有を行った。日本から Science Theme メンバーに 4 名の研究者が参加しており、科学的観点からの貢献が十分に期待できる。また、「白鳳丸」や「みらい」による観測航海を実施しており、IIOE-2 に対する日本の貢献度は高い。来年の 1-2 月にインド Goa にて 2020 IIOE-2 科学シンポジウムの開催が予定されており、日本からも積極的な参加が求められている。

2. 3. 白鳳丸によるインド洋観測航海の概要紹介

2018 年 11 月から 12 月にかけて、白鳳丸による東インド洋航海が実施された。観測は順調に実施され、東インド洋の特徴的な状況 (ベンガル湾の低塩水や亜表層のクロロフィル極大、オーストラリア西方でのニンガルーニーニャなど) が捉えられるなど、多くの成果が期待されることが升本委員長から紹介された。2020 年にも「白鳳丸」による同様の観測が予定されている。

また、GO-Ship と関係した「みらい」による航海が 2019 年下半期に予定されている。「白鳳丸」や「みらい」の他にもインド洋で観測を行う航海があるため、情報を集めて共有することとなった。

2. 4. Synthesis papers への貢献依頼

IIOE-2 の Working Group 1 では、IIOE-2 に関連する研究テーマの最新情報を取り入れた Synthesis paper を複数まとめて出版する計画を進めている。日本の研究者によるインプットを積極的にしてほしいとの依頼が升本委員長からあった。

2. 5. 次回の IIOE-2 SC meeting への対応

2019 年 3 月に南アフリカで行われる運営委員会では、Synthesis paper、2020 年の IIOE-2 科学シンポジウム、IIOE-2 が終了する 2021 年以降の方向性に関することが議題となるであろうとの紹介が升本委員長からあった。将来の方向性に関しては国連の「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年 (2021-2030)」を考慮しつつ議論が進むと考えられるため、国内でもそれらを意識した議論を深めて行くこととなった。

2. 6. 今後の活動方針と予定

小委員会の活動としては、年 1 回程度の委員会に加え、電子メール等で情報交換を行うこととなった。また、科学会合としては JpGU や海洋学会秋季大会（富山）、2020 年 1-2 月の IIOE-2 科学シンポジウムなどの機会に、積極的に参加をしていくこととした。

■ 事前配布資料：

- (1) IIOE-2 Structure 資料
 - (2) 2018 Hakuho-Maru EIO cruise 資料
- の 2 点